

ESMPRO/JMSS Ver6.0 EventManager

ユーザーズマニュアル

はしがき

本書は、ESMPRO/JMSS EventManager(以降 EventManager と称します)の機能と操作方法について説明しています。

本書の構成は次のとおりです。

章	タイトル	内 容
1	概要	EventManagerの機能概要について
2	ご利用の前に	EventManagerで利用するサービス、サーバ側の設定、JMSSセキュリティについて
3	操作	EventManagerの操作について

セットアップ方法については、セットアップカードを参照してください。

2001年 7月 初 版

備考

(1)本書はMicrosoft® Windows NT® 4.0およびMicrosoft® Windows® 2000に対応しています。

(2)Microsoft は米国Microsoft Corporationの登録商標です。

Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Windows NT 4.0はMicrosoft® Windows NT® Server 4.0、Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0の略称です。

Windows 2000はMicrosoft® Windows® 2000 Advanced Server、Microsoft® Windows® 2000 Server、

Microsoft® Windows® 2000 Professionalの略称です。

JMSSはN E C ソフト株式会社の登録商標です。

その他の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

目 次

はしがき	i
目次	ii

第 1 章 概要	1
1.1 EventManager とは	1
1.2 動作環境	1
1.3 運用形態	2
第 2 章 ご利用の前に	3
2.1 EventManager のインストール	3
2.2 EventManager サーバの設定	4
2.3 JMSS セキュリティの設定	5
2.4 用語説明	6
第 3 章 操作	7
3.1 EventManager クライアント	7
3.1.1 画面	7
3.2 イベント定義の編集	9
3.2.1 イベント定義の新規作成	9
3.2.2 イベント定義の保存	9
3.2.3 イベント定義の削除	9
3.2.4 イベント定義の名称変更	10
3.2.5 イベント定義のインポート	10
3.2.6 イベント定義の印刷	10
3.3 ボックス・論理線の編集	11
3.3.1 ボックス・論理線の新規作成	11
3.3.2 ボックス・論理線の編集	18
3.3.3 ボックス・論理線情報の表示	19

3.4 イベント定義の実行・停止	20
3.4.1 実行	20
3.4.2 強制遷移	20
3.4.3 停止	20
3.5 サーバへの再接続	21
3.6 クライアント環境設定	22
 付録1 コマンドリファレンス	 23
JCtlEvmg	23
 付録2 諸元	 25

第1章 概要

1.1 EventManager とは

EventManagerは、イベント (事象)の発生をトリガとしてジョブを実行(アクション)するためのオプションです。

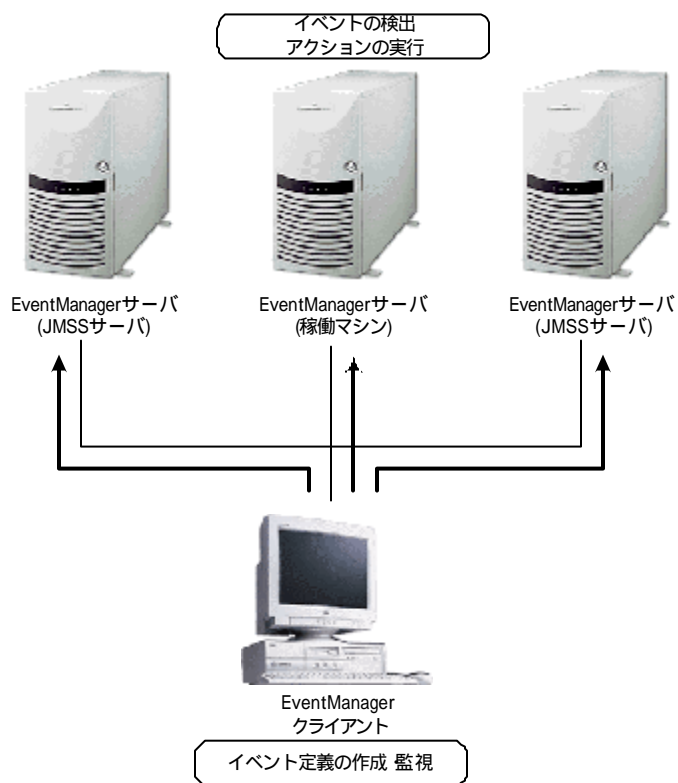
ファイルの更新、データのコピー、イベントログへの出力など、事象の変化に合わせたジョブの実行が可能となります。

1.2 動作環境

動作環境については、以下のセットアップカードを参照してください。

- ・ ESMPRO/JMSS Ver6.0 EventManager セットアップカード

1.3 運用形態



第2章 ご利用の前に

2.1 EventManager のインストール

EventManagerは、利用するすべてのサーバにインストールします。
インストール方法については、セットアップカードを参照してください。

[ESMPRO/JMSS EventManager Service について]

ESMPRO/JMSS EventManager Serviceは、EventManagerを利用するために必要なサービスです。EventManagerのセットアップ時には、このサービスの「スタートアップの種類」は「自動」と設定されています。

2.2 EventManager サーバの設定

EventManagerサーバの設定は、「EventManager環境設定」で設定します。

[スタート] - [プログラム] - [ESMPRO/JMSS]グループから「EventManager環境設定」を選択します。

[接続サーバ設定]ダイアログボックスが表示されますので、接続するサーバ名を入力、または一覧から選択し、[OK]ボタンを選択します。[検索]ボタンを利用してEventManagerサーバを検索することができます。



[イベントマネージャサービス設定]ダイアログボックスが表示されます。



次の項目について設定します。

項目	説明
ログファイル用ディレクトリ	EventManager のログに関連するファイルを保存するディレクトリを指定します。
イベント定義用ディレクトリ	イベント定義に関連するファイルを保存するディレクトリを指定します。
ログ保存件数	EventManager の実行結果ログを保存する件数を指定します。

[OK]ボタンを選択します。

2.3 JMSS セキュリティの設定

EventManagerを利用するには、JMSSセキュリティの設定が必要です。

編集/実行	セキュリティ設定権
参照	JMSS 利用権

他のJMSSサーバに接続する場合

他のJMSSサーバや、他のJMSSサーバの稼働マシンに接続する場合は、次のような設定が必要です。

接続先のJMSSサーバで、JMSSセキュリティのセキュリティ設定権を持っているユーザでWindowsにログオンします。

[スタートメニュー]の[プログラム]の[ESMPRO/JMSS]から、JEnvを起動します。

[JMSS/JEnv]メインウィンドウのコマンド選択ボックスから[JMSSセキュリティ]を選択します。

右側の権利詳細パネルの[サーバ名]コンボボックスに、接続元マシンが属するJMSSサーバ名を入力し、TABキーを押下します。

所属するユーザ(グループ)一覧と、所属しないユーザ(グループ)一覧が表示されますので、設定したいユーザ(グループ)を追加・削除します。

他のドメインのJMSSサーバや、他のJMSSサーバの稼働マシンに接続する場合は、さらに次のような設定が必要です。

- ・ 接続するユーザを接続先ドメインにも定義する
- ・ 接続先と接続元のドメインの間で相互に信頼関係を設定する

2.4 用語説明

EventManagerサーバ

JMSSサーバもしくは稼働マシンで、イベント定義を実行するサーバです。

EventManagerクライアント

JMSSがインストールされているマシンで、イベント定義を作成します。

イベント

検出対象となる事象です。次のようなイベントがあります。

イベント	説明
イベントログ	イベントログに指定した項目が出力されたかどうか検出するイベントです。
ファイル更新	指定したファイルの日付、サイズが更新(新規作成も含む)されたかどうか検出するイベントです。ディレクトリを指定することもできます。
ファイル内容	指定したファイルに、指定した文字列または値があるかどうか検出するイベントです。
サービス	指定したサービスの状態が変更されたかどうか検出するイベントです。
JMSS イベント	指定した JMSS イベントを受信したかどうか検出するイベントです。
タイマ	指定した戻り値となるまで定期的にコマンドを実行し、指定した戻り値となった時点でイベント検出とするイベントです。

アクション

イベントが検出された場合に実行します。次のようなアクションがあります。

アクション	説明
JMSS ジョブ投入	JMSS ジョブを投入します。
コマンド実行	コマンドを実行します。(JMSS 監視対象外)

ボックス

EventManagerクライアントでは、イベントやアクションはボックスで表現されます。

論理線

イベントボックスやアクションボックスをつなぐ線です。

「AND」または「OR」の指定ができます。

イベント定義

検出するイベント、実行するアクションが定義されています。

第3章 操作

3.1 EventManager クライアント





3.1.1 画面

EventManagerクライアントのメインウィンドウは次のようになっています。



イベント定義ツリービュー

EventManagerサーバに定義されているイベント定義の一覧と状態が表示されます。

 (黄色)	実行中のイベント定義
 (グレー)	実行されていないイベント定義
 (青)	編集中のイベント定義
 (赤)	他のユーザが編集中のイベント定義

イベント定義画面

イベント定義の定義内容を作成する画面です。

ログビューア

EventManagerに関するログ情報(サービスの起動・停止、イベントの検出、アクションの実行など)が表示されます。

画面の更新

イベント定義ツリービュー、イベント定義、ログビューアの内容

[操作]メニューから[最新の情報に更新]を選択します。

または、イベント定義ツリービューで、イベント定義名以外で右クリックし、[最新の情報に更新]を選択します。

実行中のイベント定義の状態

実行中のイベント定義を選択し、[操作]メニューから[再表示]を選択します。

または、実行中のイベント定義を選択して右クリックし、[再表示]を選択します。

3.2 イベント定義の編集

3.2.1 イベント定義の新規作成

EventManager のイベント定義を新規に作成します。

[ファイル]メニューから[新規作成]を選択します。

または、イベント定義ツリービューで、イベント定義名以外で右クリックし、[新規作成]を選択します。

3.2.2 イベント定義の保存

作成中のイベント定義を保存します。

[ファイル]メニューから[保存]を選択します。

または、イベント定義ツリービューで、イベント定義名で右クリックし、[保存]を選択します。

3.2.3 イベント定義の削除

イベント定義を削除します。

[操作] - [編集]を選択し、編集モードにします。

[ファイル]メニューから[削除]を選択します。

または、削除するイベント定義を選択して右クリックし、[削除]を選択します。

3.2.4 イベント定義の名称変更

イベント定義名を変更します。

[操作] - [編集]を選択し、編集モードにします。

[ファイル]メニューから[名前の変更]を選択します。

または、名前を変更するイベント定義を選択して右クリックし、[名前の変更]を選択します。

3.2.5 イベント定義のインポート

他のサーバで定義されているイベント定義をインポートします。

定義ファイルをコピーする場合にもこのコマンドを利用してください。

[ファイル]メニューから[インポート]を選択します。

[接続サーバ設定]ダイアログボックスが表示されますので、インポート元のサーバを指定します。

[インポート]ダイアログボックスが表示されますので、インポートするイベント定義を選択します。同じ名前のイベント定義が存在する場合は、イベント定義名の最後に「1,2,...」が追加されます。

3.2.6 イベント定義の印刷

イベント定義を印刷します。

[ファイル]メニューから[印刷]を選択します。

[印刷]ダイアログボックスが表示されますので、印刷する範囲や部数、印刷するプリンタやプリンタのオプションなどを設定します。

3.3 ボックス・論理線の編集

イベントボックスやアクションボックス、論理線の作成方法を説明します。

3.3.1 ボックス・論理線の新規作成

ボックスの新規作成

[操作] - [編集]を選択し、編集モードにします。

イベント定義画面でダブルクリックします。

または、イベント定義画面でクリックしたあと右クリックします。

メニューが表示されますので[イベント作成]または[アクション作成]を選択します。

作成したいボックスの種類を選択すると、[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



イベントログイベント

[指定項目]

項目	説明
ログ	検出するイベントログの種類(システム、セキュリティ、アプリケーション)を指定します。
ソース	検出するイベントログのソースを指定します。
分類	検出するイベントの分類を指定します。
種別	検出するイベントの種別([情報]、[警告]、[エラー]、[成功の監査]、[失敗の監査])を指定します。

[指定項目 2]

項目	説明
イベント ID	検出するイベント ID を指定します。
ユーザ	検出するイベントログのユーザを指定します。
コンピュータ	検出するイベントが発生したコンピュータ名を指定します。
説明	指定した文字列がイベントログの説明に含まれているかどうかを検出します。
データ	イベントログのデータの先頭 128 バイトが指定したデータと一致するかどうかを検出します。

[共通項目]

項目	説明
ボックス名	ボックス名を指定します。
遅延設定	ボックスをすぐに有効とするかどうかを設定します。 すぐに有効としない場合は[遅延時間を設定する]をチェックします。
遅延時間	遅延設定を行っている場合、遅延時間を指定します。
ログ表示コメント設定	ログにコメントを表示するかどうかを設定します。 コメントを表示する場合は[コメントをログに表示する]をチェックします。
ログ表示コメント	ログに表示するコメントを設定します。
通知音設定	イベントの検出時またはアクションの実行終了時に通知音を鳴らすかどうかを設定します。 通知音を鳴らす場合は[通知音有り] をチェックします。 通知音はイベント定義が実行されているサーバで鳴ります。
アイコンファイル名	ボックスに表示するアイコンのアイコンファイルを指定します。
アイコン	ボックスに表示するアイコンを指定します。

[イベント共通項目]

項目	説明
エラー時指定	イベントがエラーとなった場合、次のボックスに遷移するかどうか指定します。 次のボックスに遷移する場合は[イベントスルー]を、遷移しない場合は[イベント終了]を選択してください。
ポーリング間隔	イベント検出のポーリング間隔を指定します。

ファイル更新イベント

[指定項目]

項目	説明
ファイル名	検出するファイル名を指定します。フォルダを指定する場合は、フォルダ名の後ろに「¥」を付けてください。 検出対象はローカルドライブとなります。他のマシンの共有フォルダ等では検出できません。

[共通項目]

[イベント共通項目]

「イベントログ」イベントの[共通項目]・[イベント共通項目]を参照してください。

ファイル内容イベント

[指定項目]

項目	説明
ファイル名	検出するファイル名を指定します。フォルダを指定する場合は、フォルダ名の後ろに「¥」を付けてください。 検出対象はローカルドライブとなります。他のマシンの共有フォルダ等では検出できません。
ファイル種別	検出するファイルの種別(テキスト、バイナリ)を指定します。
検索位置設定	文字列または値を検索する位置を指定するかどうかを設定します。
位置	文字列または値を検索する位置を指定した場合に、その位置を指定します。
検索内容	検索する文字列または値を指定します。

[共通項目]

[イベント共通項目]

「イベントログ」イベントの[共通項目]・[イベント共通項目]を参照してください。

サービスイベント

[指定項目]

項目	説明
サービス名	検出するサービス名を指定します。
状態	検出するサービスの状態(開始、停止、一時停止、再開)を指定します。

[共通項目]

[イベント共通項目]

「イベントログ」イベントの[共通項目]・[イベント共通項目]を参照してください。

JMSSイベント受信イベント

[指定項目]

項目	説明
送信元 JMSS サーバ名	JMSS イベントの送信元 JMSS サーバ名を指定します。
送信元ユーザ名	JMSS イベントの送信元ユーザ名を指定します。
送信元マシン名	JMSS イベントの送信元マシン名を指定します。
イベント ID	受信するイベント ID を設定します。
メッセージ	受信するメッセージを指定します。

[共通項目]

[イベント共通項目]

「イベントログ」イベントの[共通項目]・[イベント共通項目]を参照してください。

タイマイイベント

[指定項目]

項目	説明
コマンド	実行するコマンドを指定します。
パラメータ	コマンド実行時のパラメータを指定します。
実行ディレクトリ	コマンド実行時のディレクトリを指定します。
検出対象終了値	検出対象とする戻り値の範囲を 16 進または 10 進で指定します。
未検出時のリトライ間隔	戻り値が指定した範囲外だった場合、次にコマンドを実行する間隔を指定します。(指定した戻り値となるまでのコマンド実行間隔です) イベント検出後、間隔をあけてから次のコマンド実行を行いたい場合は、共通項目の[遅延設定]で間隔を設定してください。

[共通項目]

[イベント共通項目]

「イベントログ」イベントの[共通項目]・[イベント共通項目]を参照してください。

JMSSジョブ投入アクション

[指定項目]

項目	説明	
業務名	実行するジョブの業務名を指定します。	
ジョブ名	実行するジョブ(exe、bat、ジョブネット等)を指定します。	
パラメータ	実行するジョブのパラメータを指定します。	
実行ディレクトリ	実行時のディレクトリを指定します。	
ジョブキュー名	ジョブを投入するジョブキュー名を指定します。	
優先順位	ジョブの優先順位を設定します。	
標準出力の監視	ジョブが出力する標準出力を監視するかどうか指定します。	
ファイル名	標準出力を監視する場合、ファイル名、上書きか追加かを指定します。	
実行経過時間タイムアウト	実行するジョブのタイムアウト時間を指定します。	
ジョブの終了待ちを行う	ジョブの終了待ちを行うかどうか指定します。	
	指定した場合	ジョブの終了コードを確認することができます。 ジョブ実行中にそのジョブに関するイベントが検出された場合、実行中のジョブが終了してから再度実行されます。
	指定しなかった場合	ジョブの終了コードを確認することができません。 ジョブ実行中にそのジョブに関するイベントが検出された場合、検出された時点で再度実行されます。

[共通項目]

「イベントログ」イベントの[共通項目]を参照してください。

コマンド実行アクション

[指定項目]

項目	説明	
コマンド	実行するコマンド(exe、bat 等)を指定します。	
パラメータ	実行するコマンドのパラメータを指定します。	
実行ディレクトリ	実行時のディレクトリを指定します。	
優先順位	コマンド実行の優先順位を設定します。	
コマンドの終了待ちを行う	指定した場合	コマンドの終了コードを確認することができます。 コマンド実行中にそのコマンドに関するイベントが検出された場合、実行中のコマンドが終了してから再度実行されます。
	指定しなかった場合	コマンドの終了コードを確認することができません。 コマンド実行中にそのコマンドに関するイベントが検出された場合、検出された時点で再度実行されます。

[共通項目]

「イベントログ」イベントの[共通項目]を参照してください。

[プロパティ]ダイアログボックスの[OK]ボタンを選択すると、ボックスが作成されます。

論理線の新規作成

一つ目のボックスを選択し、次のボックスを選択します。
または、[編集]メニューから[論理線作成]を選択し、接続するボックス間でドラッグします。
論理線は、デフォルトでは「AND条件」が指定されています。
「OR条件」とするには、論理線を選択し、右クリックして[OR条件]を選択します。

論理線のプロパティ
論理線を選択し、右クリックして[プロパティ]を選択すると、[論理線プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

[表示項目]	
項目	説明
説明	論理線の説明などのコメントを設定します。
[遷移条件設定]	
項目	説明
項目	条件とする項目を選択します。 前のボックスの種類によって項目が変わります。
条件	「==」「!=」「>」「<」「>=」「<=」から選択します。
値	条件とする値を設定します。 数値の場合は 10 進または 16 進で指定します。
[表示設定]	
項目	説明
論理線テキストを表示する	論理線の説明などを表示するかどうかを設定します。 表示する場合は、表示する項目(遷移条件、コメント、発生カウント)を選択します。

3.3.2 ボックス・論理線の編集

ボックス・論理線の切り取り

切り取りたいボックス・論理線を選択し、[編集]メニューから[切り取り]を選択します。
または、切り取りたいボックス・論理線を選択して右クリックし、[切り取り]を選択します。

ボックスのコピー

コピーしたいボックスを選択し、[編集]メニューから[コピー]を選択します。
または、コピーしたいボックスを選択して右クリックし、[コピー]を選択します。

ボックスの貼り付け

貼り付けたい位置でクリックし、[編集]メニューから[貼り付け]を選択します。
または、貼り付けたい位置で右クリックし、[貼り付け]を選択します。

ボックス・論理線の削除

削除したいボックス・論理線を選択し、[編集]メニューから[削除]を選択します。

連続で論理線を削除する場合は、[編集]メニューから[論理線任意削除]を選択して論理線削除モードにし、削除したい論理線をダブルクリックします。

ボックスの移動

移動させたいボックスを選択し、[編集]メニューから[移動]を選択します。

移動させる位置でクリックします。

3.3.3 ボックス・論理線情報の表示

ボックス名や論理線の遷移条件などの情報を表示することができます。

ボックス名の表示

[表示]メニューから[ボックス名]を選択します。

論理線情報の表示

情報を表示する論理線を選択し、右クリックして[プロパティ]を選択します。

[論理線プロパティ]ダイアログボックスが表示されますので、[表示設定]の[論理線テキストを表示する]をチェックし、表示する項目(遷移条件、コメント、発生カウント)を選択します。

3.4 イベント定義の実行・停止

3.4.1 実行

イベント定義の実行には、次の2種類があります。

先頭から実行

イベント定義の先頭から実行します。

実行するイベント定義を選択し、[操作]メニューから[実行] - [先頭から実行]を選択します。

または、実行するイベント定義を選択して右クリックし、[実行] - [先頭から実行]を選択します。

途中から実行

前回実行時に停止されたボックスからイベント定義を実行します。

実行するイベント定義を選択し、[操作]メニューから[実行] - [途中から実行]を選択します。

または、実行するイベント定義を選択して右クリックし、[実行] - [途中から実行]を選択します。

3.4.2 強制遷移

検出中のイベント(未検出)を検出したことにして、イベント定義の実行を次のボックスに遷移させます。

検出済みとみなしたいイベントボックス後の論理線で右クリックし、[強制遷移]を選択します。

3.4.3 停止

実行中のイベント定義ファイルを停止します。

停止するイベント定義を選択し、[操作]メニューから[停止]を選択します。

または、停止するイベント定義を選択して右クリックし、[停止]を選択します。

3.5 サーバへの再接続

現在接続しているサーバとは別のサーバに接続する場合や、ネットワーク障害などでサーバとの接続が切断されてしまった場合は、サーバへの再接続を行います。

[ファイル] - [再接続]を選択します。

[接続サーバ設定]ダイアログボックスが表示されますので、接続するサーバ名を入力、または一覧から選択します。[検索]ボタンを利用してEventManagerサーバを検索することができます。

[OK]ボタンを選択すると、サーバへ接続します。

3.6 クライアント環境設定

ログの自動更新、ログ表示フィルタなど、EventManagerクライアントの設定を行います。

[オプション] - [クライアント環境設定]を選択します。

[環境設定]ダイアログボックスが表示されます。

次の項目について設定します。

・ ログ設定

項目	説明
表示ログ件数	表示するログの件数を指定します。
ログの自動更新を行う	ログビューアに表示されるログを自動的に更新するかどうか設定します。
ログ更新間隔	ログを更新する間隔を指定します。

・ ログ表示フィルタ設定

項目	説明
終了値設定	終了コードでフィルタリングを行う場合に指定します。終了コードの範囲(10進または16進)、その範囲を表示するかどうかを指定します。
日付指定	指定した日付以降のログが表示されます。
他ユーザログ出力	他のユーザが作成したイベント定義のログを表示します。

[OK]ボタンを選択すると、設定が反映されます。

設定内容を次回起動時にも有効とする場合は、[保存]を選択してから[OK]ボタンを選択してください。

付録1 コマンドリファレンス

JCtlEvmg

イベント定義の一覧取得、実行/停止の切り替えを行うコマンドです。

構文 JCtlEvmg [/A[ll]] [/L[ist]] [/C[sv]] [/S[erver]:サーバ名]
[/M[ode]:START|RESTART|STOP] [/N[ame] イベント定義名]
[イベント定義 ID]

パラメータ

- /A[ll]**
EventManagerサーバの一覧を表示します。
- /L[ist]**
サーバに登録されているイベント定義の一覧(詳細情報も含む)を表示します。
イベント定義IDオプションまたはイベント定義名オプションを指定すると、指定されたイベント定義の情報を表示します。
- /C[sv]**
サーバに登録されているイベント定義の一覧(詳細情報も含む)をcsv形式で表示します。
イベント定義IDオプションまたはイベント定義名オプションを指定すると、指定されたイベント定義の情報を表示します。
- /S[erver]:サーバ名**
EventManagerサーバ名を指定します。
- /M[ode]:START|RESTART|STOP**
イベント定義の実行/停止を切り替えます。
START(先頭から実行)、RESTART(途中から実行)、STOP(停止)のいずれかを指定します。
対象とするイベント定義は、イベント定義IDオプションまたはイベント定義名オプションで指定してください。
- /N[ame] イベント定義名**
対象とするイベント定義名を指定します。
- イベント定義ID**
対象とするイベント定義IDを指定します。

付録2 諸元

EventManager の諸元は次の通りです。

諸元項目	諸元値
イベント定義でのボックス数	128 個
イベント定義での論理線数	9999 - (定義済みボックス数) 個
登録可能定義ファイル数	256 個

ESMPRO®/JMSS® EventManager
(Windows® 2000版)
ユーザーズマニュアル

2001年 7月 初版

日 本 電 気 株 式 会 社
東京都港区芝五丁目7番地1号
TEL(03)3454-1111(大代表)

開発 N E C ソフト株式会社
東京都江東区新木場1-18-6
TEL(03)5569-3333(大代表)

(C)NEC Corporation/NEC Soft, Ltd.2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改編などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。